

## 追加募集要項

文学部生対象・英文学科主催  
2018年度カールトン大学サマープログラム  
追加募集要項

## Doshisha at Carleton



"I used English everyday in this program. At first, I had no confidence about my English, but now, I can speak English more assertively. Moreover, I met a lot of people and saw many new things, so I found many interesting things in this program."

"This summer became a cherished memory for me!  
I did well to choose this summer program."

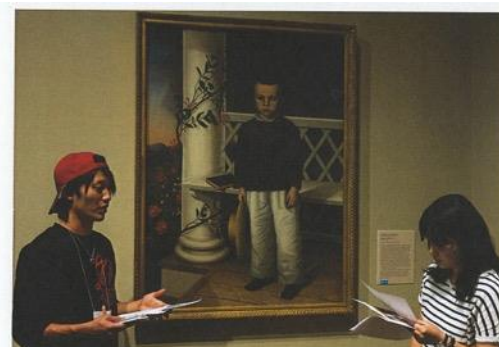


The Doshisha and Carleton Peer Experience is a unique program allowing Doshisha students to interact with students from Carleton College in Northfield, Minnesota. Together, they learn from each other about language and culture. Doshisha students can improve and practice their English language skills in a supportive and exciting environment. Explore Northfield, try new food, meet new friends, make lasting memories and challenge yourself here at Carleton College! We hope to see you soon!



"The Carleton peers were so kind and the time we spent with them is so precious and memorable for me. They helped us a lot and planned many fun things, like playing frisbee, cooking in the dormitory, and playing funny games. I can't express my appreciation!"

Doshisha students will take three courses about American Literature and Culture. Students will have the chance to encounter things they have learned about on field trips to museums and cultural events.



## 目次

1. 追加募集・個別相談開催.....	3
2. 出願から合格までの日程の流れ.....	3
3. プログラムの内容と詳細.....	3
3.1. プログラムの特徴：同志社大学とカールトン大学の両大学における文学部生とカールトン大生の交流 .....	3
3.2. カールトン大学（Carleton College）について .....	4
3.3. プログラムの概要 .....	4
3.4. 研修期間.....	5
3.5. 対象者 .....	5
3.6. 最小催行人数.....	5
3.7. 参加費用.....	5
3.8. 奨学金 .....	5
3.9. ビザ（査証）について.....	6
3.10. 事前準備科目「留学ワークショップ（2）」 .....	6
3.11. 科目時間割 .....	6
3.12. 授業内容とレベル.....	6
3.13. 週末や放課後のイベント.....	6
3.14. 滞在形式.....	7
3.15. 食事 .....	7
3.16. 教員の付添いについて .....	7
3.17. その他.....	7
4. 出願と選考について.....	7
4.1. 出願資格.....	7
4.2. 出願書類.....	8
4.3. 出願期間と出願先 .....	8
4.4. 選考方法.....	9
5. 他のプログラムとの併願について .....	9
6. 合格後のキャンセルについて .....	9
7. 事前準備科目「留学ワークショップ（2）」の登録について .....	9
8. 2018年度春学期の Doshisha Peers としての活動について .....	9
9. 問い合わせ先.....	10

追加募集要項

## 1. 追加募集・個別相談開催

以下の日程で追加募集の個別相談を実施します。

**\*文学部在学学生**

- □日時：3月22日（木）9:00～12:00
- 場所：徳照館204号室（藤井光研究室）

3月22日以前に説明が必要な場合は、本要項最後の問い合わせ先まで連絡してください。

**\*文学部2018年度新入生（以下のいずれかの機会を利用してください）**

- 日時：4月2日（月）14:45～15:45
- 場所：RY403～412のいずれか（新入生歓迎会の時間帯にて、教員の藤井光に相談）
- 日時：4月5日（木）10:00～11:30, 13:00～15:00
- 場所：良心館301教室（登録相談の教室にて、教員の菅原真理子・藤井光に相談）

## 2. 出願から合格までの日程の流れ

出願期間：3月7日（水）～4月5日（木）

（出願先：教務センター文学部窓口）

面接：4月6日（金）（場所と時間は出願者に出願時にメール連絡）

（合否はメール連絡で通知します）

※合格者は、8日（土）もしくは9日（日）には、さっそくカールトン生とグループに分かれて交流のための野外実習に出る可能性があるため、そのいずれかの予定を空けておくこと。

## 3. プログラムの内容と詳細

3.1. プログラムの特徴：同志社大学とカールトン大学の両大学における文学部生とカールトン大生の交流



カールトンからの留学生との交流写真

本プログラムは8月上旬から下旬の3週間にかけて米国ミネソタ州のカールトン大学（Carleton College）において行われるサマープログラムですが、夏期のみならず渡航前の春学期から同志社大学においてカールトン大学の学生と交流が始まります。カールトン大学現地での語学研修で英語運用能力を向上させるだけでなく、同志社とカールトンの両大学における学生同士の交流から、グローバル化社会に必要とされる積極性やリーダーシップなども養うことができます。それが他

### 追加募集要項

のサマープログラムにはない本プログラムの最大の特徴のひとつです。

- 渡航前の春学期（4月上旬から6月上旬までの2か月間）に、カールトン大学から約20名の学生が同志社大学に短期留学に来ます。その間、本プログラムに参加する文学部の学生は **Doshisha Peers**（同志社の仲間）として、カールトンからの留学生たちと週末に名所見学をしたり様々なイベントに参加したりして、英語を使って友人関係を築いていきます。
- さらにカールトンの留学生たちが同志社大学において受講する一部の講義（使用言語は英語のみ）も聴講することができます。
- サマープログラム期間中は、同志社に短期留学に来ていたカールトンの学生たちの一部が、今度は **Carleton Peers**（カールトンの仲間）として、参加者の現地での研修と寮での生活を全面的にサポートします。

### 3.2. カールトン大学（Carleton College）について

カールトン大学は、アメリカ合衆国ミネソタ州のノースフィールド市に位置する4年制の男女共学のリベラルアーツ・カレッジ（1866年設立）です。在籍学生数約2,000名と小規模の大学ですが、きめ細やかな少人数教育で定評があり、全米のリベラルアーツ・カレッジの中で毎年上位10校に入る名門です。またカールトン大学のキャンパスおよび周辺は湖が点在する自然豊かな地域で治安が良いことでも知られています。カールトン大学と同志社大学とは半世紀以上に渡って交流があり、1970年代までは、カールトン・ハウスと呼ばれる学生寮が本学内に存在し、カールトンから派遣されてきた代表と同志社生が生活を共にしていた時代もありました。しばらく、両大学間の密な交流が途絶えた時期もありましたが、2012年度からカールトンの学生を春学期に同志社に短期留学生として迎え、そして2014年度からは本サマープログラムが実施されるようになりました。

### 3.3. プログラムの概要

本プログラムは8月上旬から下旬にかけて、カールトン大学で実施される3週間のサマープログラムです。プログラム期間中はカールトン大学の寮に滞在し、語学科目およびアメリカ文化科目を受講します。授業はカールトンの専任教授陣が担当し、その内容とレベルは参加者の興味と語学能力に合わせて決定されるため、参加者たちの満足度も高くなっています。さらにキャンパスから出て、アメリカ文化科目で学んだことを実体験し、ノースフィールドの地元の人々の家庭を訪問することで、アメリカ文化に直に触れることもできます。また上記の項目1.1でも説明したように、春学期に同志社大学に来ていた短期留学生の一部が、本プログラム期間中は **Carleton Peers** として参加者と共に寮に滞在し、参加者の研修と生活を全面的に支援してくれます。参加者と **Carleton Peers** はすでに春学期中に同志社大学において友人関係を構築しているので、プログラム期間中の両者の交流は円滑に運びます。このように本プログラムは、質の高い授業、アメリカ文化体験、そして学生同士の交流の場の3つを同時に提供することのできる有意義なプログラムであり、参加者に対して行った帰国後アンケートにおいても高評価を得ています。

## 追加募集要項

## 3.4. 研修期間

- 2018年8月2日～8月24日（ただし帰国は8月26日）を予定しています。  
予約可能な飛行機の発着時間によっては、出発と帰国の日は多少前後するかもしれません。

## 3.5. 対象者

- 文学部生
- ただし再修生（5年次生以上）で2018年度春学期卒業見込みの方は出願できません。

## 3.6. 最小催行人数

- 6名（2016年度は9名が、2017年度は11名が参加しています。）

## 3.7. 参加費用

- 2017年度は85万円～120万円<sup>1</sup>を見込んでいます。
- ただし、費用は参加人数・為替レート・現地の物価によって変動します。
- 参加費用の内訳は以下の通りです。支払いは全て円建て<sup>2</sup>です。
 

■ 学費（寮費と1日3食の食費含む）：	約4,400ドル（20名の場合）
	約4,900ドル（10名の場合）
	約6,000ドル（8名の場合）
	約6,600ドル（6名の場合）
■ J-1 visa 申請費用と SEVIS 登録料：	約400ドル
■ 旅行代金：	約22万円
■ 保険料：	約8,500円
- 費用納入手続の詳細に関しては、参加が決定した学生に対しての説明会にてお伝えします。
- なお支払額の方が実際にかかった費用よりも多い場合は、その差額をプログラム終了後に参加者各自に口座振込で返金します。

## 3.8. 奨学金

- 大学より各参加者に対して「海外活動を伴う正課科目履修者への奨学金」5万円が支給されます。
- それに加え、一定の基準を満たす学生のうち上位8名には日本学生支援機構からの奨学金が8万円ずつ支給されます。
- 大学からの奨学金は、2018年度の秋学期末（2019年1月～3月末ごろ）に銀行口座振込で支給される予定です。

<sup>1</sup> 2017年度の各自の費用は約90万円でした。（1ドル117.56円の換算レートに基づく）

<sup>2</sup> ドルで表示されている費用には、プログラムが実施される年の2月最後の平日の三菱東京UFJ銀行のTTSレートに4円を追加した換算レートが適用され、円に換算されます。

## 追加募集要項

## 3.9. ビザ（査証）について

- 参加者は全員 **J-1 visa** を米国総領事館に申請し取得します。
- **J-1 visa** 取得者は全員、米国の入国管理局の **SEVIS**（学生・交流訪問者情報システム）に登録されます。
- 申請手続きは文学部が一括して代行します。しかし申請に必要な一部の書類は参加者本人が取得し、米国総領事館で行われる面接（英語）にも参加する必要があります。
- 詳しくは参加が決定したものに対して、参加者説明会および「留学ワークショップ（2）」の授業内で説明します。

## 3.10. 事前準備科目「留学ワークショップ（2）」

- 参加者は英文学科生と他学科生の区別なく、**2018** 年度春学期に開講される英文学科の「留学ワークショップ（2）」（4 単位）を履修しなければなりません。
- この科目はアメリカの歴史・文化・社会や危機管理や渡航に関する事項など、サマープログラムに参加するにあたり必要な知識を身につけることを目的としています。さらに、カールトンからの短期留学生との交流を促進するための授業も行います。
- 授業は毎週火曜日の 6 講時（午後 6 時 25 分～午後 7 時 55 分）に行われます。
- この授業に出席しない学生は、サマープログラムに参加できなくなります。
- 登録方法については以下の項目 7 を参照してください。

## 3.11. 科目時間割

以下はプログラムのカールトン大学での科目時間割の例です。**2018** 年度の時間割は **2018** 年 7 月に確定します。

10:30~12:00	Native American Culture
13:30~14:30	Creative Writing

-----  
 夕方                      Official Event

## 3.12. 授業内容とレベル

カールトン大学現地での授業内容とレベルは、出願時に願書と共に提出していただくアンケートの結果や語学能力試験のスコアを鑑みて、カールトンの担当者と決めていきます。授業は全てカールトンの専任の教授が担当する予定です。参加者たちは、語学科目（**Free Writing**）でショートストーリーや英詩を自ら作成し、アメリカ文化科目でアメリカの音楽や映画・演劇、短編小説、詩、そしてアメリカの方言などについて学びます。またこのアメリカ文化科目で学んだ内容に関連したことを、キャンパスの外に出て実体験する機会もあります。（アメリカ文化科目はそれぞれのテーマごとに、それを専門領域とする教授が担当します。）

## 3.13. 週末や放課後のイベント

以下に示すのは、**2017** 年度のイベントの例です。

- 地元の人々の家庭を訪問

### 追加募集要項

- 日本食を披露する Japanese Dinner Party
- 野球観戦（Minnesota Twins の試合を Target Field で観戦）
- Mall of America の見学
- 先住民の文化集会见学
- Dakota County Fair 見学
- これら、サマープログラムで指定したイベントにかかる交通費やチケット代などは、全て参加費用に含まれます。

### 3.14. 滞在形式

- キャンパス内の学生寮に滞在します。
- 同志社生 5 名に 1 名程度の割合で、Carleton Peers のアシスタントの学生も、同志社の参加者と共に寮生活をします。
- 寮は区画に分かれており、各区画にそれぞれリビング・トイレ・シャワールームと 4 つのベッドルームがあります。ベッドルームには 1 人部屋のものとは 2 人部屋とがあり、どちらになるかは現地に行ってみないとわかりません。2 人部屋の場合、同志社生の参加者同士でシェアすることになります。特別な健康上の理由から 1 人部屋を希望する参加者は、事前に申し出ていただくことになります。
- 男女が同じ区画になることは決してありません。
- 各区画とベッドルームには鍵がかかるようになっています。
- 各階にはキッチンもあります。

### 3.15. 食事

平日にカールトン大学のカフェテリア（学食）でとる食事および週末の食事は、朝昼晩の 3 食すべて参加費用に含まれています。大学の学生寮のキッチンでおやつを作ることも可能ですが、3 食の食事以外の食材にかかる費用は参加者が個人的に負担します。（食材や生活雑貨を購入できる grocery store が徒歩圏内にあります。）

### 3.16. 教員の付添いについて

このプログラムには教員の付添いはありません。

### 3.17. その他

- 本サマープログラムがカールトンカレッジで実施されている期間中に、日本の他大学（中央大学）のサマープログラムも同時に実施されている可能性があります。寮と授業は他大学とは別です。ただし週末のイベントの中には、他大学の学生と一緒にいるものもあります。
- 各クラスは同志社大学の参加者のみで構成されます。

追加募集要項

## 4. 出願と選考について

### 4.1. 出願資格

TOEFL-ITP 470点以上、CASEC 570点以上<sup>3</sup>、IELTS 5.5点以上、TOEFL-iBT 52点以上、TOEIC 500点以上のいずれかを2015年1月以降に取得している者、もしくは大学での英語の平均値が2.50以上の者<sup>4</sup>。これらの語学能力試験を受験したことのない方は、項目 9 の問い合わせ先にご相談ください。

### 4.2. 出願書類

以下の5点を提出してください。

- ① 願書  
(文学部 HP よりダウンロード可)
- ② 志望理由書  
(日本語、ワープロ・手書きどちらも可。書式は文学部 HP よりダウンロード可)
- ③ アンケート  
(文学部 HP よりダウンロード可)
- ④ 成績証明書もしくは成績通知書のコピー (2018 度新入生は提出の必要はありません)
- ⑤ 語学能力試験のスコアを出願資格とする場合は、語学能力試験のスコアのコピー (受験日が2016年1月以降のもの)。CASEC の場合は CASEC のサイトにログインし、そこからスコアシートをダウンロードし、それを印刷して提出すること<sup>5</sup>。  
※ 願書には、保護者本人の直筆で記入する箇所があるので注意してください。(下宿生は保護者に願書を一度郵送するか、保護者に願書を文学部 HP よりダウンロードしてもらい、必要箇所に記入してもらう必要があります。もしも保護者による記入が締め切りまでに間に合わない場合は、本要項最後の連絡先までご連絡ください。)

### 4.3. 出願期間と出願先

- 期間：2018年3月7日(水)～4月5日(木)  
(月曜から金曜日 9:00～17:00、ただし 11:30～12:30 は除く)
- 出願先：今出川キャンパス 教務センター (文学部) 窓口 (良心館1階)

<sup>3</sup> CASEC は入学前に新入生全員が受験します。

<sup>4</sup> ここでいう英語の成績とは、(1) 英文学科の1~2年次必修語学科目、(2) 英文学科の選択科目 I の語学科目 A 群と B 群、(3) 全学共通教養科目の外国語教育科目のうち英語の科目のみ (ただし成績が「合格・不合格」の科目を除く) の成績を指します。英文学科生は (1) と (2) から履修した科目の成績と (3) から履修した場合はその成績も含めた合計の平均となる。他学科生の場合は (3) から履修した科目の成績の平均となります。

<sup>5</sup> CASEC サイトへのログイン方法などが不明な場合は、RY 館 1 階の教務センター・外国語担当窓口に行って問い合わせてください。



## 追加募集要項

### 4.4. 選考方法

- 選考は日本語による面接の結果や提出物の内容を総合的に判断します。
- 面接場所と時間：出願締め切り後に大学メールに通知します。
- 所要時間：10分~15分程度
- 面接日：4月6日（金）
- 合否発表：面接後にメールで通知します。

### 5. 他のプログラムとの併願について

- 原則として本プログラムと秋学期に行われる Semester プログラムを併願することはできません。(ただし本プログラムの帰国日と Semester プログラムの出発日との間に十分に日数を空けられる場合は併願が可能になる場合もありますので、併願を希望する方は担当者にご相談ください。)
- 本プログラムの選考に合格した学生は、大学の国際課で主催している他のサマープログラム（募集時期は2018年度4月中旬以降）には応募ができなくなりますので、ご注意ください。

### 6. 合格後のキャンセルについて

- 選考に合格した学生の側の理由によるキャンセルは原則として認められません。参加について十分に考慮し、保護者の方ともよく相談した上で出願してください。
- 出願人数が最少催行人数に達しない場合は、サマープログラムはキャンセルとなります。その場合であっても Doshisha Peers としてカールトンからの留学生と春学期に交流をすることができます。Doshisha Peers の活動内容は項目8を参照してください。

### 7. 事前準備科目「留学ワークショップ（2）」の登録について

- 英文学科の2018年度春学期開講科目「留学ワークショップ（2）」は、教務センターで一括登録を行うため、参加者個人の登録手続きは不要です。
- 本科目は、毎週火曜日の6講時（午後6時25分から午後7時55分）に開講されますので、必ずこの時間は空けておいてください。
- 本科目の成績はサマープログラム終了後の秋学期末に通知します。

### 8. 2018年度春学期の Doshisha Peers としての活動について

- Doshisha Peers としての活動は、義務ではありませんが、積極的に参加しカールトンの学生と交流することが望まれます。(※2018年度はサマプロに参加しない学生（他学部・他学科生含む）も Doshisha Peers に加わる可能性があります。)
- 本活動は2018年4月上旬から6月上旬までの2か月間に行われます。

4月 4日（水）：ウェルカム・パーティ（アーモスト館）

\*ここで、第1回目のグループ活動（二条城見学）のためのグループ分けおよび待ち合わせ場所・時間等の打ち合わせをします。

7日（土）もしくは8日（日）：カールトン生と一緒にグループで二条城へ

#### 追加募集要項

- 14日（土）もしくは15日（日）：カールトン生と一緒にグループで石山寺へ
- 5月 11日（金）の夕から12日（土）にかけて大阪（梅田）に一泊  
15日（火）：葵祭見物（授業が入っていない者のみ参加）  
最終週の平日の夕方：野球観戦
- 6月 1日（金）の夕方：カールトンからの留学生の送別会（アーモスト館）

- Doshisha Peers の正式な活動にかかる費用（交通費、チケット代、昼食代、宿泊費）はカールトンカレッジより支給されます。（ただし、学生同士で意気投合して、正式な活動以外で食事をする場合の費用は各自が負担します）
- カールトンからの留学生が受講する一部の講義（使用言語は英語）を Doshisha Peers も聴講できます。

#### 9. 問い合わせ先

英文学科教員 藤井 光 [hfujii@mail.doshisha.ac.jp](mailto:hfuji@mail.doshisha.ac.jp)